

カルチャーコーナー

▽おおらかな子どもたちの表現の世界へ
第42回在日朝鮮学生美術展が松江市で開催されます。日本の朝鮮学校で学ぶ、幼稚園から高校までの子どもたちの美術作品の全国巡回展です。鳥取では昨年まで5年間この美術展が開催されました。1999年まで山陰朝鮮初中級学校(松江市)があった島根県では初めての開催になりま

す。この展覧会は山陰地方で朝鮮学校の子どもたちの美術作品と出合えるとても貴重な機会です。

作品は極めてユニークな力作ぞろい。子どもたちは少しも臆することなく自由に伸び伸びと表現を楽しみ、遠慮なく枠をはみ出していく作品の細部にまで魂が宿っています。見る者は圧倒され、思わず見とれてしまっ

でしょう。これらの純真無垢でおおらかな作品から、大人たちはうっかり力をもろってしまつかもしれない。宍道湖のほとりのすてきな美術館で素朴に作品を楽しむのもよし、作品を通してこの社会に共に暮らす人びとの多様性や豊かさに思いを馳せるのもよし。どうぞ子どもたちの豊かな作品群に、自然体で会いに来てください。

仲野 誠(在日朝鮮行委員会)。

学生美術展・島根展実行委員、鳥取大学教授

◇第42回在日朝鮮学生美術展・島根展は13日(午前10時)午後6時、最終日は午後5時まで、島根県立美術館(松江市袖師町)で。13日は午前10時半から開会セレモニー、同11時から展示作品解説、午後1時から「民族教育と美術展」に関する講演。問い合わせは携帯電話090(1686)6588、実行委員会へ。

在日朝鮮学生美術展

全国の朝鮮学校に通う子供たちの美術作品を紹介する「第42回在日朝鮮学生美術展」が13日、松江市の県立美術館で始まる。県内に在日コリアンの民族学校はないが、芸術を通じて交流を深めてほしいと、日本人の支援者も入った実行委が県内で初めて開く。

あすから松江・県立美術館

「生き方投影、作品で交流を」

全国的な「生き方投影」の減少から1999年に岡山朝鮮初中級学校に統合された。現在、島根、鳥取両県に民族学校はない。一方、鳥取県内では09年から昨年まで美術展が5回開かれた。今回展示されるのは、幼稚園から高級学校に通う子供たちの絵画を中心とした5時）。

約400点。実行委のメンバーで鳥取県の小学校教員、三谷昇さん(60)は鳥取での開催に奔走した経験がある。三谷さんは「在日コリアンの生き方が作品に表れている。(作品を通して)朝鮮学校に通う子供たちとの出会いを楽しんでほしい」と話している。入場無料。16日まで。午前10時〜午後6時(最終日は同5時)。

【金志尚】

2014.2.12 毎日新聞

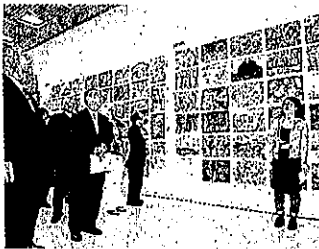
絵画や刺しゅう500点 在日朝鮮学生美術展

松江県立美術館

日本国内にある朝鮮学校の児童・生徒らの作品を集めた第42回在日朝鮮学生美術展(実行委員会主催)が13日、松江市袖師町の県立美術館で始まった。県内での開催は初めてで、個性豊かな絵画や造形作品が、ギャラリーを飾っている。16日まで。幼稚園児から高級学校の学生までの絵画や

刺しゅうなど優秀作品約500点を展示。絵画に写真を組み合わせた作品や緻密な刺しゅうなど、自由な発想の作品が多い。同日は開会セレモニーがあり、集まった約30人を前に朴一南・同展中央審査委員長(57)が「朝鮮学校では、教諭らが独自のカリキュラムに取り組んでいるため、作品がバラエティーに富んでいる」と紹介。その後、教諭らが作品の特徴を解説した。

鑑賞した松江市内津田2丁目の会社員渡部桃香さん(33)は「日常生活をカラフルに描いた作品が多かった」と話した。



来場者に作品を解説する朝鮮学校の教諭(右)

2014.2.14 山陰中央新報

「すごすぎ、私もがんばろう。」



会場にはたくさんの観客が訪れた

山陰地区で6回目を迎えた在日朝鮮学生美術展(以下、学美展)は、今回は鳥取県を離れ、実質的山陰地区となる島根県松江市で初めて開催された。

また、地元実行委員会に結果した人たちが多彩な趣向と出会いの場でもあった。地元実行委員の一人は、「学美展は、私たちの可能性でもあり、未来でもある」と語り、「目の前で直接それ(作品)に触れ、感じる事ができた幸せ」とも言っている。

今回の松江市での展示は、山陰地区で唯一あった山陰朝鮮中級学校が1999年に岡山朝鮮中級学校と合併となり、13年目を迎える年の開催でもあった。当時の生き生きとした子どもたちの姿を思い起こしながら、鳥取と島根の市民が互いに呼びかけ、地元実行委員会を立ち上げ、開催の準備を始めた。

島根県をはじめとした行政や教育関係機関、マスコミ、各種団体など地元55団体の後援を受け開催に至ったこと、鳥取県以上の関心の高さを強く感じた。「竹島の日」の制定以後話題となることが多い島根県で、隣人との友好関係を進める各種団体の積極的な支援は、学美展開催を進められた。

開催期間中には500余人の来場者があり、そのうち7歳から80歳代の120人から感想文が寄せられるという過去にはないほどの反響に関係者らは喜んだ。とりわけ今回の開催で私が感じた特徴を、来場者から寄せられた感想文の内容を持って伝えらるれば、次のようになる。

1つ目は、地元高校の作品展が隣室で開催されていたが、その出品者である高校生からの感想文が、その作品からも作者の思いが伝わってきて、見る側にもさまざまな考え方をさせてくれるものばかりでした。とにかく、「すごすぎ」です。私も、もっとがんばらうと思いました。この内容から、作品を通して日本の生徒と朝鮮学校の生徒との心の交流を実感した。

また、会期中には、作者である京都と兵庫の朝鮮学校の生徒たちが会場を訪れてくれ、自分の作品への思いを熱く来場者に語ってくれた。このことも展示された作品の表現力の強さを示す大きな力となった。2つ目は、来場者の中には、「自分だけ見たのではもったいない」と、期間中に知人に声を掛け、何度も会場に足を運んでくれた方が多くいたことだ。他にも、「作品を見つめていると、絵の作者と対話している気になった」という感想もあった。作品解説をされる学美展の先生の話や熱心に聞かれる方の中には、さらに子どもたちの朝鮮学校での生活の様子についても質問され、朝鮮学校が置

学美展は私たちの未来

第42回在日朝鮮学生美術展

島根展

本稿の冒頭で、「学美展は、私たちの可能性でもあり、未来でもある」と語った地元実行委員の言葉を引

かれています。現実も関心をもたれていた。3つ目は、連絡先を添えて「次の開催も島根でしてほしい。開催の折には協力したい。案内をぜひほしい」との声が多かったことだ。「絵の持つ本質的な力」と出会い、「絵に託した思いを受け取る力」を自ら持とうとする機会をこの美術展が与えてくれた。ぜひ、開催活動そのものに関わりたいという思いがつのったものであった。

このたびの第42回学美展の成功に感謝しつつ、これからも朝鮮学校で学ぶ子どもたちの熱い思いを伝えるべく、より多くの人々に呼びかけて行きたい。島根県実行委員会、次の第43回学美展を出雲市で開催することを決定した。

絵を見て心の対話をする親子



生徒が作品に込めた思いを語っている

用したが、私はこの展示会が、ささくれ立った日本と朝鮮との関係を和らげてくれるもの、日本でも尋らす日本人と在日朝鮮人を子どもが描く絵でつないでくれるかけがえのない場であると考えている。

(三谷昇・第42回学美展 島根県実行委員会世話人)